

接続教育のための補習教育の実施

工学基礎教育センター 横井 嘉孝

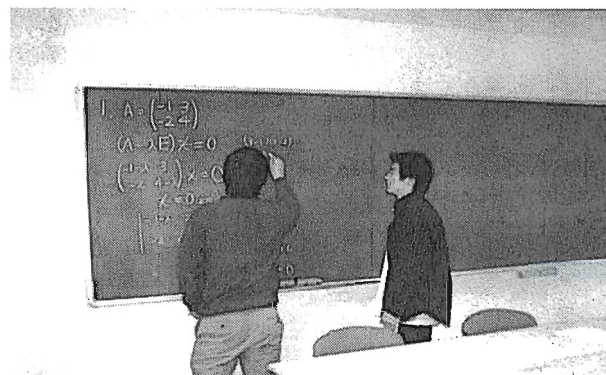
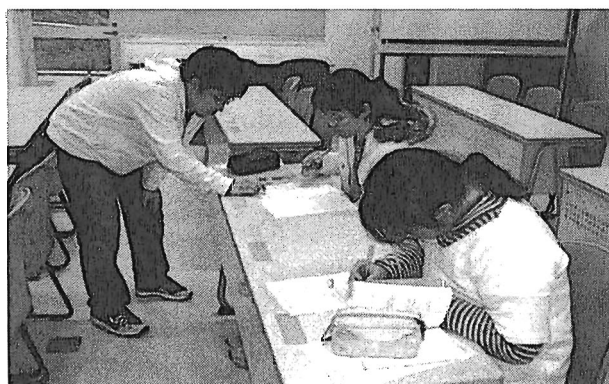
はじめに

工学基礎教育センターは、平成17年度より、工学部新入生全員に対する数学の全般的な学力の底上げを目標として、教材作成を始め、環境整備、教育実施形態の検討などの工学部新入生全員を対象とする高校から大学教育への接続のための補習教育プロジェクトの準備をしてきた。このような準備期間を得て、平成18年度に実施されたものづくり創造融合工学教育事業授業開発・カリキュラム拡充採択プロジェクト「接続教育のための補習教育」は、ゆとり教育の世代として象徴される新学習指導要領の下で学んだ学生が大学に入学した際、基礎数学における力の底を上げたいという時代的要請に応える意味を持っている。そして、2年目となる平成19年度の本接続教育の実施プログラムは、従前採択課題継続支援プロジェクトとして採択され、工学部の基礎工学教育支援プログラムとして着実に成長しつつある。

実施概要

本プロジェクトは工学基礎教育センターを挙げて、事業担当教員2名とセンター教員9名による11人体制で取り組んだ。補習教育は、前・後期合わせて35名の学生が参加し、個々人の理解度に応じて3つのコースを並行して実施した。

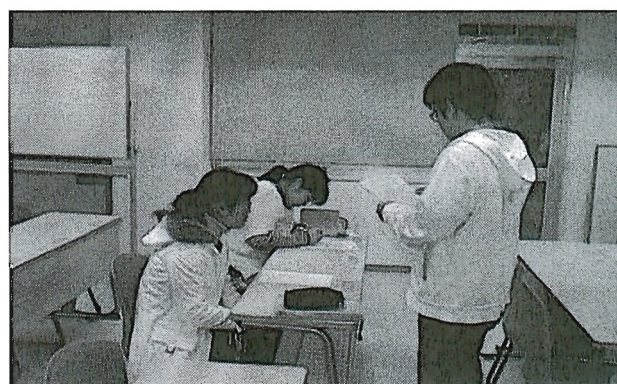
「個別学習相談コース」では、基礎学力不足に履修継続が特に困難と思われる学生に対し、質問・演習などを通じて明らかになった学生の欠点を克服するための指導を行った。



個別学習相談

「プリント添削コース」では、一部の知識が不足している学生を対象に、項目ごとの演習問題を与えて解答させ、基礎教育センター教員による添削を通じて、各学生が自主的に自分の欠点を補っているようにした。演習問題や解答の提出はWebCTを利用した。

「補習講義コース」では、数学の基礎学力が不足で、専門基礎科目（微分積分・線形代数）などの正規授業科目において補習を希望する学生のために基礎教育センター教員による補習講義が行われた。



補習講義

まとめ

本接続教育の実施プログラムは、個々人の理解度に応じた複数の補習教育の実施形態として拡充して行った。このことより、学生の主体的かつ自立的な学習姿勢が期待される。